

## 2019 年 夏 留学報告書

2019 年 8 月 5 日

London School of Economics/CEP

武田 航平

地下鉄の中が地獄のような暑さになる35°C以上の日も過ぎ去り、過ごしやすい日が続いているロンドンから報告します。

### 1. 研究と進路

さて、この夏はドラフト状態の研究のリバイズと、今年になって始めた2つの研究を進めていく予定です。僕の研究対象は空間経済学と呼ばれる分野で、その分析対象は国際貿易、地域経済、および都市経済ですが、ここ10年くらいで研究が非常に盛んになってきたように感じます。とりわけ、定量空間経済学 (**quantitative spatial economics**) と呼ばれる分野あるいは手法はここ5年くらいで一気に研究が増えてきました。学会のプログラムを見ても、理論的研究の多くはこの手法を用いて分析したものが多いです。僕の実感としては、もうしばらく(あと2, 3年は)この流れが続くのではないかと考えています。というのも、観測されるデータ(例えば、人口分布や住宅価格の分布)とマッチングさせるために、ある程度振る舞いが限定される理論モデルを立てて、基本となるパラメータを推定するという一連の研究手法がいろいろな文脈を分析するのに比較的容易に応用できるからです。それに加えて、推定したパラメータに基づいて反実仮想シミュレーションを行うことで、政策の影響を一般均衡的に捉えることができるというメリットも持ち合わせているため、色々な国や都市の政策(例えば、インフラの整備や再開発など)を分析するのに有用という点も大きな理由です。したがって、最近のジョブマーケット(経済学 PhD 学生の就職活動)を見てみると、トップ学生を含めてほとんどの研究がこの手法になっています。

僕の現在取り組んでいる研究も、半分くらいはこの手法になっています。ただし、他の学生と同じような研究をしても面白くないので、一つの研究では、「定量空間経済学では説明できないこと」に焦点を当てて、内生的な経済集積のメカニズムだけでどこまで都市内の経済活動の分布を説明できるか、ということの数値計算およびデータと合わせて明らかにすることを行っています。また、定量空間経済学では説明対象としていない、マイクロメカニズムも非常に興味深いところだと考えています。具体的には、例えば「集積の経済」と一言で言っても、知識の波及(スピルオーバー)における集積の効果と労働市場における集積の効果は、空間範囲もメカニズムも大きく異なりますし、産業ごとにも効果が異なります。実証研究ではこれらについてある程度の研究蓄積がありますが、そのベースにあるマイクロメカニズムについては、まだ未解明なものが多いです。多様なビックデータにアクセスできるようになるに従い、これらの研究も進んでいくのではないかと興味もっています。

いまの分野の波がいつまで続くかは分かりませんが、ジョブマーケットでは、それが非常に重要だということが(少なくとも僕の分野では)近年の結果を見ると明らかなので、自分の研究を進めつつしっかり見極めていかなければならないと思っています。

## 2. Brexit と生活への影響

3年前の2016年の6月に国民投票が行われ決定されたイギリスの EU 離脱、いわゆる **Brexit** もいよいよ大詰めを迎えています(ここまで、イギリス議会もグダグダだったわけですが)。先日、新たな首相としてボリス・ジョンソン氏が選ばれ、10月末の離脱期限までに様々な交渉が進められていくはずですが。

**Brexit** の影響の中でも、実生活に直接影響するだろうと考えられるのは、物価の上昇です。実際に、国民投票後には急激なポンド安のため、輸入品を中心に物価が急上昇し(物価指数 **CPI** インフレ率は3パーセント程度まで上昇)、実質賃金が大きく下がりました。その後、労働市場では賃金が調整されたため、実質賃金は再び上昇に転じましたが、物価は依然高いインフレ率を示しています。一方で、価格上昇が落ち着いてきているものもあります。住宅価格指数(**HPI**)のインフレ率は国民投票以降下がり続けており、これはイギリス経済の不確実性から投資が減退したことが要因の一つと考えられます。11月以降、「合意なき離脱」となると、これらの流れが再び生まれることが考えられます。大学も、物価の上昇を受けて、**TA** や **RA** の給料を上げていますが11月以降の経済状況によっては実質賃金の低下が止まらない可能性もあるので、他人事ではなく備えしておく必要があると考えています。具体的には、株式投資および運用、為替取引などでしょうが、経済学を研究している人はそういったことに不得手な場合もありまして。。

さて、ロンドンで迎える4回目の夏を生産的にすべく、益々精進していきます。